三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展　V

前期：2024年6月1日(土) ～ 7月7日(日)

会場：三鷹市美術ギャラリー　主催：三鷹市美術ギャラリー・（公財）三鷹市スポーツと文化財団

出品リスト

＊「森秀貴・京子コレクション」

作品番号	作家名	作品名	イメージ寸法（縦×横）	制作年	技法／材質	エディション	備考
1	福島修子	鳥－1993	1940×1620mm	1993年	油彩／カンヴァス		
2	福島修子	薄暮の空間 Ⅰ－2011	1940×1620mm	2011年	油彩／カンヴァス、板		
4	藤江民	鷹の血	480×345mm	1996年	シルクスクリーン／紙	130/150	＊
5	筆塚稔尚	蛍-1	800×600mm	1992年	凹版、凸版／紙	14/18	
6	筆塚稔尚	蛍-2	600×910mm	1992年	凹版、凸版／紙	2/18	
7	堀浩哉	風の声 A-Ⅰ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	66/80	＊
8	堀浩哉	風の声 B-Ⅰ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	64/80	＊
9	堀浩哉	風の声 C-Ⅰ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	67/80	＊
10	堀浩哉	風の声 D-Ⅰ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	61/80	＊
11	堀浩哉	風の声 E-Ⅰ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	62/80	＊
12	堀浩哉	風の声 F-Ⅰ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	61/80	＊
13	堀浩哉	風の声 A-Ⅱ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	56/60	＊
14	堀浩哉	風の声 B-Ⅱ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	54/60	＊
15	堀浩哉	風の声 C-Ⅱ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	54/60	＊
16	堀浩哉	風の声 D-Ⅱ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	54/60	＊
17	堀浩哉	風の声 E-Ⅱ	627×935mm	1991年	シルクスクリーン／紙	48/60	＊
18	堀浩哉	風の声 F-Ⅱ	935×627mm	1991年	シルクスクリーン／紙	55/60	＊
19	堀浩哉	鷹の血	460×240mm	1996年	シルクスクリーン／紙	130/150	＊
20	前田常作	牡丹の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	68/120	＊
21	前田常作	椿の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	69/120	＊
22	前田常作	紫陽花の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	68/120	＊
23	前田常作	朝顔の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	68/120	＊
24	前田常作	蓮（白）の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	68/120	＊
25	前田常作	菊の図	391×391mm	2006年	シルクスクリーン／紙	68/120	＊
26	最上壽之	ミテキタヨウナ　ウソヲツク	415×1630×267mm	1997年	松		
27	元永定正	さんつながり	460×644mm	1988年	シルクスクリーン／紙	149/150	＊
28	元永定正	あかいしかくはみどりとみどり	644×460mm	1993年	シルクスクリーン／紙	92/150	＊
29	元永定正	くろだえんさんかくむらさきまるみどり	460×644mm	1993年	シルクスクリーン／紙	96/150	＊
30	元永定正	せんのまわりに	460×644mm	1994年	シルクスクリーン／紙	88/150	＊
31	森田沙伊	私の戸棚	1575×908mm	1963年	紙本彩色		
32	森田沙伊	犬	1595×1225mm	1968年	紙本彩色		
33	森田沙伊	二人像	1350×1666mm	1971年	紙本彩色		
34	山下菊二	KとMとの人生案内	390×270mm	1972年	シルクスクリーン、コラージュ／紙	43/60	
50	横尾忠則	ピカビアーその愛と誠実 Ⅰ	1476×956mm	1989年	シルクスクリーン／紙	149/150	＊
51	横尾忠則	ピカビアーその愛と誠実 Ⅱ	1471×946mm	1989年	シルクスクリーン／紙	15/150	＊
52	横尾忠則	ピカビアーその愛と誠実 Ⅲ	1476×956mm	1989年	シルクスクリーン／紙	142/150	＊
53	横尾忠則	キリコーその永遠性	1475×1023mm	1990年	シルクスクリーン／紙	79/150	＊
54	横尾忠則	キリコーその閉じられた知性	1475×1028mm	1990年	シルクスクリーン／紙	90/150	＊
55	横尾忠則	キリコーそのトライアングル	1475×1020mm	1990年	シルクスクリーン／紙	90/150	＊
221	吉田穂高	石と人, A	350×490mm	1956年	木版／紙		
222	吉田穂高	石と人, B	350×480mm	1956年	木版／紙		
223	吉田穂高	（失題）	350×480mm	1956年	木版／紙		
224	吉田穂高	游	490×290mm	1957年	木版／紙	16/56	
225	吉田穂高	裏通りの神話，七面鳥のいる	328×436mm	1976年	亜鉛凸版、木版／紙	7/50	
226	吉田穂高	私のコレクションより－坂道の家, H.	680×510mm	1980年	亜鉛凸版、木版／紙	4/50	
227	吉田穂高	私のコレクションより－トタンの家, N．J．	300×440mm	1982年	亜鉛凸版、木版／紙	5/100	
228	吉田穂高	三つの扉	375×565mm	1982年	亜鉛凸版、木版／紙	1×/××	

作品番号	作家名	作品名	イメージ寸法（縦×横）	制作年	技法／材質	エディション	備考
229	吉田穂高	赤の壁	1115×1718mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
230	吉田穂高	白の壁	840×1480mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
231	吉田穂高	緑の壁	860×1273mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
232	吉田穂高	ベージュ色の壁	860×1276mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
233	吉田穂高	錆色の壁	848×1490mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
234	吉田穂高	土色の壁	1115×1718mm	1992年	亜鉛凸版、木版／紙	4/15	
235	吉田政次	閃光	434×286mm	1958年	木版／紙	9/100	
236	吉田政次	除夜の鐘 No1	602×457mm	1967年	木版／紙	2/30	
237	依田順子	雲の影	2285×1830mm	2007年	アクリル／和紙、ウッドパネル		
238	依田寿久	無題 #A-10	1375×2140mm	1981年	油彩／カンヴァス		
239	依田洋一朗	ハーフムーン・ホテル	1524×1829mm	2002年	油彩／カンヴァス		
273	和田賢一	無題	606×727mm	1983年	テンペラ／白亜地・綿布・パネル		
274	和田賢一	無題	530×457mm	1990年	アクリル／木パネル		
275	和田賢一	ATOM 03-5 O.Y.P.B.	1620×1303mm	2003年	アクリル／綿布・木枠		

※No.3 福島修子「閉館5分前-Ⅱ」は都合により展示しておりません。No.35-49は三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー（2024年6月8日-7月15日）に、No.56-220, 240-272は後期（2024年7月13日-8月18日）に展示いたします。

作家解説

福島修子 FUKUSHIMA Shuko

1936（昭和11）年-

新潟県中蒲原郡五泉町（現・五泉市）生まれ。1959年女子美術大学芸術学部洋画科を卒業する。1960 年結婚後三鷹市にアトリエを構え、1965 年より新制作展に出品を始める。『天声人語1～8 1945-1975 年』（朝日新聞社）のカットを担当する。1995年「第59回新制作展」にて新作家賞受賞、1996年新制作協会会員に推挙される。

藤江民 FUJIE Tami

1950（昭和25）年-

富山県富山市生まれ。1969年明治大学文学部仏文学科入学。大学在学中にすいどーばた美術学院、日本美術家連盟の夏期版画講習会へ短期間通う。1972-77年東京版画研究所にてリトグラフの刷師・女屋勘左衛門に師事する。1974年明治大学文学部仏文学科卒業、同年シミズ画廊にて初個展を開催する。大学卒業後は、画廊で働きながら制作を続ける。1978年「第12回日本国際美術展」に入選。1979年郷里の富山へ転居。表現の自由について問題意識をもち続けている。

筆塚稔尚 FUDEZUKA Toshihisa

1957（昭和32）年-

香川県に生まれる。1981年武蔵野美術大学造形学部油絵学科を卒業。1983年東京藝術大学大学院版画専攻を修了する。1990年から１年間カナダ政府給費留学生として、アルバータ大学の客員研究員を務める。2000-01年文化庁在外研修員としてポーランドに滞在。東京造形大学などで非常勤講師を務める。

堀浩哉 HORI Kosai

1947（昭和 22）年-

富山県高岡市生まれ。1967年多摩美術大学絵画学科に入学し、在学中に学生によって結成された美術家共闘会議（美共闘）の議長を務める。1970年学生運動の責任者として大学を除籍となる。1971年美共闘Revolutionを新たに結成し、制度化された美術表現を批判し、画廊や美術館外での作品発表を展開する。当初はパフォーマンス中心であったが70年代末より絵画の歴史やその起源を探求しながら、ジャンルを超えた絵画を制作していく。2002-15年多摩美術大学絵画学科にて教授を務める。多摩美術大学名誉教授。

前田常作 MAEDA Josaku

1926（大正15）-2007（平成19）年

富山県下新川郡椚山村（現・入善町）に生まれる。1944年富山師範学校本科（現・富山大学教育学部）に入学し、丸山豊一に美術を学ぶ。1945年召集。富山師範学校を卒業後、富山県内の中学校で図工科を教える。1948年東京都台東区立忍岡中学校に転勤し、この頃から鶴田吾郎洋画研究所と中央美術研究所に通う。1949年武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大学）西洋画科に入学。同年「第13回自由美術家協会展」で初入選する。1953年武蔵野美術学校を卒業し、河原温や池田龍雄によって結成された制作者懇談会に入会する。1955年初個展をタケミヤ画廊にて開催。1958-66年フランス滞在。60年代より曼陀羅をチーフとした作品の制作を開始する。1979-83年は京都市立芸術大学美術学部教授、1983-94年は武蔵野美術大学油絵学科教授を務め、2000年から同大学理事長を務める。武蔵野美術大学名誉教授。2007年、死去。享年81歳。

最上壽之　MOGAMI Hisayuki

1936（昭和11）-2018（平成30）年

神奈川県横須賀市に生まれる。1955年光風会研究所にてデッサンを学んだ後、翌年東京藝術大学彫刻科に入学し、石井鶴三に師事する。1960年同校を卒業。卒業制作作品を同年の「第10回モダンアート協会展」に出品し、奨励賞を受賞する。1961年村松画廊にて初個展を開催。1962年「第12回モダンアート協会展」に出品し、同会会員となる。1974年文化庁在外研修員として渡仏（1年間）。1975年第4回平櫛田中賞を受賞し、日本橋高島屋で受賞記念展を開催する。1986年には「みなとみらい21彫刻展ヨコハマ・ビエンナーレ'86」でみなとみらい21賞を受賞し、みなとみらいに屋外彫刻《タイヤヒラメノマイオドリ》が設置される。2001年紫綬褒章を受章。1979年武蔵野美術大学彫刻科の助教授となり、1981年から教授を務める。2005年退任。2018年、死去。享年82歳。

元永定正　MOTONAGA Sadamasa

1922（大正11）-2011（平成23）年

三重県阿山郡上野桑町（現・伊賀市上野桑町）に生まれる。1938年三重県立上野商業学校を卒業したのち、大阪で働きながら漫画を描く。1940年中之島洋画研究所で学びながら、1944年から洋画家・濱邊萬吉に師事する。1952年弟のいる神戸へ転居し、西宮美術教室へ通う。1953年「芦屋市展」へ出品しホルベイン賞を受賞する。同展出品作品が吉原治良の目に留まったことを契機に、後に具体美術協会に参加する。1957年大阪阪急百貨店にて初の個展を開催。1958年から日本画の「たらしこみ」にヒントを得て、絵具を流した作品の制作を始める。1960年マーサ・ジャクソン画廊と契約する。1966年渡米し、ニューヨークでの制作を開始する。アクリル絵具やエアブラシを制作に用いるようになる。1983年第2回芸術文化振興協会賞、第15回日本芸術大賞を受賞する。1988年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ、1991年紫綬褒章、1997年勲四等旭日小綬章を受章。2011年、死去。享年88歳。

森田沙伊　MORITA Sai

1898（明治31）-1993（平成５）年　　本名：森田 才一

北海道札幌郡苗穂村(現・札幌市）生まれ。1917年に上京し川端画学校を経て、1923年東京美術学校（現・東京藝術大学）日本画科専攻を卒業する。在学中に川合玉堂、結城素明に師事し、小林古径に強い影響を受ける。1928年「第9回帝展」にて《ことり》が初入選する。以後、帝展のほか改組帝展、新文展に出品し続ける。1937年三鷹市に転居。1939年「第3回新文展」に出品した《孫》が特選を受賞する。1940年には法隆寺金堂壁画模写に取り組み始めるが、翌年病気のために中止する。1958年「第1回新日展」に出品した《少年》が、第15回日本芸術院賞を受賞。1975年日展顧問、日本芸術院会員に選出される。1993年、死去。享年95歳。

山下菊二　YAMASHITA Kikuji

1919（大正８）-1986（昭和61）年

徳島県三好郡辻町（現・三好市井川町）に生まれる。兄の影響で美術に関心を持つようになる。1932年高等小学校卒業後、香川県立工芸学校（現・香川県立高松工芸高等学校）鋳金科へと進学する。1937年工芸学校卒業後、福岡県の松屋百貨店宣伝部に勤務し、ショーウィンドウや広告などの制作に携わる。美術学校への進学をのために上京し福沢一郎の研究所に通い始め、研究所の自由な雰囲気や福沢一郎がフランスから持ち帰ったシュルレアリスムに惹かれていくようになる。1939年召集される。1942年除隊となり、東京へ戻る。1943年「第５回美術文化協会展」に出品し、美術文化賞を受賞。1944年3月から東宝航空教育資料製作所に勤務する。そこで後年まで親交をもつ高山良策等と出会う。1945年再び召集され、徳島の連隊へ入隊する。戦後、自らの戦争体験について語り、戦争を作品の主要なテーマとする。1986年、死去。享年67歳。

横尾忠則　YOKOO Tadanori

1936（昭和11）年-

兵庫県多可郡西脇町（現・兵庫県西脇市）生まれ。幼少の頃から絵画に関心を持ち、高校時代には商工会議所や地元の商店街のポスターを制作する。1955年兵庫県立西脇高校を卒業後、神戸新聞でデザインの仕事を始める。1960年に上京し、日本デザインセンターに入社。60年代に寺山修司や唐十郎と知り合い、天井桟敷や状況劇場などの舞台関係のポスターを手掛ける。1969年「第6回パリ青年ビエンナーレ版画部門」にてグランプリを受賞。1972年ニューヨーク近代美術館で個展が開催される。その後、1980年7月に同館で開催されたピカソの展覧会に衝撃を受け画家宣言を発表し、グラフィック・デザイナーから画家に転向する。2000年代になるとシリーズ「Y字路」の制作を始める。2023年文化功労者、日本芸術院会員に選出される。

吉田穂高　YOSHIDA Hodaka

1926（大正15）-1995（平成７）年

東京府北豊島郡滝野川町（現・東京都北区）生まれ。父は洋画・版画家として活躍した吉田博。1944年第一高等学校（旧制）理科甲類に入学するが、しばらくして空襲の激化とともに喘息が再発し休学する。1945年油彩画の制作を開始し、40年代末からは日本アンデパンダン展や太平洋画会に作品を発表するようになる。1955年アメリカ、中南米への旅行で古代マヤ文明から強烈な刺激を受け、帰国後は抽象木版画の制作に着手する。1956年初の個展「吉田穂高個展〈メキシコの旅より Ⅰ〉」が村松画廊にて開催される。同年、「第1回シェル美術賞」にて《石と人》が3等賞を受賞する。1963年の渡米でポップアートに触れ、それ以降自らの作品に写真製版を導入し木版と併用した独自の技法を開拓する。1967年三鷹市井の頭に転居。1980年日本美術家連盟理事に就任。
1995年、死去。享年69歳。

吉田政次　YOSHIDA Masaji

1917（大正6）-1971（昭和46）年

和歌山県有田郡に生まれる。1934年に和歌山県立耐久中学校（現・和歌山県立耐久高等学校）卒業後に上京し、川端画学校に学ぶ。1936年東京美術学校（現・東京藝術大学）西洋画科へ入学、1941年に同校を卒業する。翌年、太平洋戦争に従軍。1946年に復員。東京美術学校研究科に入学し翌年同科を修了する。1948年頃から版画の制作を始める。1949年「第17回日本版画協会展」に出品し、1952年日本版画協会会員となる。1955-66年自宅アトリエで版画教室を開く。1956年「第4回ルガーノ国際版画ビエンナーレ」をはじめとした国際展にも出品を重ねる。1957年「第1回東京国際版画ビエンナーレ」にて新人賞、1969年「第8回ホアン・ミロ賞国際素描展」にて大賞を受賞する。1971年、死去。享年54歳。

依田順子　YODA Junko

1943（昭和18）年-

徳島県三好町（現・三好郡東みよし町）に生まれる。1957年中学2年生の時、香川県牟礼町（現・高松市）に移住し、1962年に高松第一高等学校を卒業する。武蔵野美術大学造形学部油絵専攻を卒業し、1967年同大学造形専攻科油絵専攻を修了。1968年高松の宮武画廊にて初個展を開催。学生時代に出会った大胆で自由なアメリカの美術に憧れ、1969年渡米する。2000年以降には和紙を素材としたオブジェの制作をはじめるなど新しい試みを行っている。寿久、洋一朗と現在も一家3人でニューヨークを拠点に活動している。

依田寿久　YODA Toshihisa

1940（昭和15）年-

静岡県清水市（現・静岡市清水区）に生まれる。1966年武蔵野美術大学実技専修科を修了後、渡米。半年後、ニューヨークのブルックリン・ミュージアム・アート・スクールに入学する。1970年アートスチューデント・リーグへ移る。後にマサチューセッツ州ピッツフィールドのバークシャー・ミュージアムのアニュアル・イグジヴィジョン（Annual Exhibition）でクレイン・アンド・カンパニー・アワードを受賞。国内外で数々の展覧会へ出品する。現在もニューヨークを拠点として制作を続けている。

依田洋一朗　YODA Yoichiro

1972（昭和47）年-

香川県高松市生まれ。生後3か月でニューヨークに渡る。両親（寿久、順子）ともに画家。1995年タイラー・スクール・オブ・アートを卒業。1996年クイーンズ・カレッジ大学院に入学。1998年同校にて修士号を取得。2000年HEREArtにて初の個展「42nd Street」を開催し、約20点の劇場を描いた作品の展示とビデオ・ドキュメンタリー《Last Days of 42nd Street》を上映する。2001年から2004年の間、クイーンズ・カレッジでドローイングのクラスを教える。2002年メトロポリタン美術館に監視員として就職し、2011年まで働きながら制作に取り組む。海外での個展多数。

和田賢一　WADA Kenichi

1956（昭和 31）-2008（平成20）年

広島に生まれる。1980年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業後、1981年国際ロータリー奨学生としてイタリアのローマとフィレンツェに3年間留学する。帰国後は、東京にある絵画保存研究所にて修復家として働きながら制作を続ける。広島の爆心地から至近距離で被爆した母親の体験から影響をうけ、また原爆のもつ強力な光のイメージを絵画の光へと転化していくことを試み、「ATOM-原爆」シリーズの制作を開始する。2006年セゾン現代美術館「ART TODAY 2006」へ出品。2007年文化庁在外研修員としてイタリアへ派遣される。2008年、死去。享年51歳。